

## 【活動レポート】5/1 学習支援講座「子どもの学びを広げる支援について」



5月1日、卒業生の讚井綾香さんに「子どもの学びを広げる支援について」という演題で、ご自身の児童学習支援での経験を語って頂きました。讚井さんは府中国際交流サロン児童学習支援を約3年半続けてきた、私たちの大先輩です。お話の中には、同じ活動をする私たちがまさに感じていることや、活動をよりよくしていくためのヒントがたくさんありました。

讚井さんの「1か0なら、0.5から。」という言葉が印象に残っています。学習支援の活動では、外国につながる子どもたちに日本語を教えたり、学校の宿題を一緒に考えたりします。しかし、子どもたちはいつも勉強に意欲的になれる訳ではありません。勉強に集中できない日や、椅子に座ってたくない日もあります。そんなとき、讚井さんは「今日はここだけやろう」「次回はきちんとやろう」と言って、その日勉強することを少しに絞ったそうです。しっかり勉強するか全くしないかなら、少しずつから。何か一つ持って帰ってくれば良い、という姿勢を私も真似したいと思いました。

また、讚井さんは、支援をしていく中で失敗やカラ振りもあるけれど、「あの子だったら何をしたら喜んでくれるか」をいつも考えることが大事だとアドバイスしてくださいました。例えば、子どもに好きなものを語ってもらって、質問して話を広げる。小学校高学年の女の子は手紙のやり取りが好きだから、手紙を書き合う...など、ただ日本語の50音や勉強を教えるだけが学習支援ではないことを改めて感じました。子どもの数だけ、また私たち学生の数だけ学習支援の形は様々だという事にとっても納得しました。

学習支援で活動した讚井さんにしかできない、貴重なお話を聞くことができました。お話を心に留めて、これからの学習支援活動に活かしていきたいと思います。

(言語文化学部ペルシア語専攻2年 田代智恵子)

日時: 2015年05月12日